

分類	NO.	テーマ	対象地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
市役所づくり	1	市の予算について	共通	<p>予算是对話の結晶との市長の言葉に共感しました。目の前の課題への予算配分は理解しましたが、まちづくりは中長期的な視点が重要だと思います。人への投資以外に、今後どのような形で予算を配分していくのかを伺いたいです。</p>	<p>本質的なご質問をありがとうございます。 中長期的な予算配分についてですが、私は「人への投資」が最も重要だと考えています。将来、地域を担っていくのはやはり人です。この地域を愛し、まちづくりに関わってくれる子どもたちに対して、積極的に投資をしていきたいと思っています。また、そうした人々を支えてくださっている方々への支援も、私の大きな思いの一つです。</p> <p>もう一つ、街づくりは一人ではできないということです。私一人ではもちろん、市職員だけでも実現できません。地域で日々活動されている多くの方々が、実際にまちづくりを担ってくれています。たとえば、子どもたちへの支援やシニアの方々へのケアなど、地域を共に作ってくださっている皆さんに、しっかりと支援をしていきたいと考えています。こうした思いを持って、今後の予算配分や施策に取り組んでいきたいと考えています。</p>	—	財政課
市役所づくり	2	市の予算について	共通	<p>歳入が増えることも重要ですが、それ以上に予算の使い方にメリハリが必要だと感じています。限られた資源の中で、やるべきことを大胆かつ思い切って絞り込み、重点的に取り組んでいただきたいと思っています。</p>	<p>ご指摘の通り、予算配分においては「箱物（ハード）」への投資には慎重であるべきだと考えています。例えば水道について、印西市のニュータウン地域には県の水道が通っていますが、それ以外の地域では市営水道や栄町との共同水道があり、赤字となっているのが現状です。これは住宅数が少ないためです。</p> <p>住民の皆さんからは水道整備の要望も多く寄せられていますが、短期的には整備可能でも、長期的な維持管理コストを考えると、将来の市政運営に大きな負担となる可能性があります。</p> <p>本来の目的は「安心・安全な水を提供すること」です。仮に水道が整備できない場合でも、水質に問題があるなら、浄水器やウォーターサーバーの購入に対する助成など、代替手段を講じることで対応したいと考えています。将来的にハード整備が財政の重荷にならないよう、柔軟で持続可能な方法で予算を活用していきたいと思っています。</p>	—	財政課
市役所づくり	3	市の予算について	共通	<p>今年度の一般予算では歳入が約9.5%増加している一方で、土木費が約5.8%減少しています。これは単年度予算なので一概には言えませんが、私は新しい道路を造ることを求めているのではなく、既存の道路の安全性向上やインフラの保全・維持管理を重視してほしいと考えています。</p> <p>特に、埼玉県八潮市で起きた事故のように、インフラの老朽化によるリスクは今後ますます増えると思われれます。そうしたなかで、土木費が減少しているのは懸念材料です。治水や道路整備といった生命を守る政策は、政治の根幹であるべきです。</p> <p>また、来年4月には道路交通法の大きな改正が予定されており、自転車は2008年から軽車両として車道を走ることが義務付けられています。しかし、現状の道路行政はその法改正に追いついておらず、乖離が大きいと感じています。</p> <p>印西市の交通政策も、国土交通省や警察庁の指針に基づいて進められているとは思いますが、道路行政に関する取り組みが十分に反映されていないように見受けられます。今後は、自転車が安全かつ快適に走行できる環境整備にも、より配慮していただきたいと思っています。</p>	<p>ありがとうございます。土木費については、前年度が53億円、今年度が50億円と約3億円の減少となっています。これは、何か大型の事業が完了したことが要因としてあったように思います。詳細は確認が必要ですが、事業内容の違いによるものだと考えられます。</p> <p>ただ、道路に関するご意見は非常に多くいただいており、私自身も重要な課題だと認識しています。そのため、道路予算については何とか増額できないかということで現在調整を進めているところです。特に補修や修繕に関しては、数千万円単位で増額している部分もあります。詳細については、持ち帰って確認します。</p>	確認中	土木管理課 道路建設課 下水道課
市役所づくり	4	行政の課題について	共通	<p>私たち市民には単年度の予算しか見えないため、長期的な計画の全体像は把握しづらいのが現状です。道路の改修計画があることは理解していますが、実際には人手も予算も不足しており、計画が進んでいる様子が見えません。</p> <p>こうした状況を見ると、行政内部の調整にも課題があるのではないかと感じています。</p>	<p>現在、土木分野に対応できる技師や専門職の人材が大きく不足しています。これは予算を確保する以上に深刻なボトルネックとなっており、担当部署とも対応策について協議しているところです。</p> <p>例えば、土木の経験を持つシニア世代の方々に市役所で活躍していただくなど、人材確保の新たな取り組みも検討しています。また、上下水道に関しては、特に八潮市での事例のようにリスクがあることは認識しています。市としても点検は行っていますが、全てを網羅するのは現実的に難しい状況です。</p> <p>例えば衛星技術などの新しいテクノロジーを活用し、効率的かつ低コストでインフラの状況を把握する方法も検討しています。予算を単に削減するのではなく、安心・安全な道路環境を整備していけるよう努力をしていきたいと考えています。</p>	—	都市建設部

分類	NO.	テーマ	対象地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
市役所づくり	5	人材育成について	共通	<p>国の人材というのは、東大出身の優秀な方々が多数いらっしゃいます。にもかかわらず、行政の現場では「1+1が2、あるいは3にならない」といった、目に見えない非効率さを感じるがありました。私はその点について、「なぜそうなるのか」と疑問を呈したことがあります。</p> <p>人材育成には大いに賛成ですが、1+1が確実に2になるような、あるいはそれ以上の成果を生み出せるような調整力を持った人材の育成、そうした観点に、ぜひ重点を置いていただきたいと思います。</p>	<p>専門性の問題ではなく、発想の柔軟さが重要だと感じています。市長になってみて、職員の皆さんが非常に真面目に業務に取り組んでいることを実感しました。ただ、地方自治体では「こうすべき」というルールが厳格に決められていて、発想が固くなりがちです。</p> <p>私は、そうした枠を少し緩めて、職員だけで抱え込まず、もっと多くの方を巻き込んでほしいと考えています。良い例として、5月11日に牧の原駅周辺で開催された「まちなか音楽祭」があります。今年は市民550名が出演し、1万人以上が来場しました。これは音楽を続けてきた市職員が中心となり、市民の仲間と委員会を立ち上げて始めたもので、行政主導ではありませんが、まちを元気にする理想的な取り組みだと思います。</p> <p>こうした柔軟な発想で動ける職員を育て、それが許される風土をつくるのが、組織文化の変革につながります。10年、20年後、私がいなくなった後も、市民のために職員が生き生きと働ける環境を築いていきたいと考えています。</p>	—	人事課
市役所づくり	6	人材育成について	共通	<p>人材育成については、ぜひお願いしたいと思っています。市長のご挨拶の中でも触れられていましたが、私も大賛成で、その思いを伝えるために今日ここに来ました。ぜひ積極的に進めていただきたいです。</p> <p>私の希望としては、最近、市外から通勤されている職員の方が増えていると感じています。そうした方々にも、印西の教育の一環として、印西の気候風土、歴史、地理、地質などを学ぶ姿勢を広めていただきたいと思います。</p> <p>市長のように印西で育った方には、こうした地域の背景が自然と身に付いているかもしれませんが、印西をより深く理解することが、職員としての意識や地域への愛着にもつながるのではないかと考えています。</p>	<p>最後に一つ申し上げたいのは、皆さんそれぞれ居住されている地域があると思いますが、印西市は非常に多様な地域で構成されています。実際、印西生まれの職員であっても、全ての地域を把握しているわけではありません。</p> <p>だからこそ、可能な限り多くの地域を知ってもらいたいと思いますし、逆に全てを知る必要はないとも思っています。ただ、それぞれの地域に寄り添ったまちづくりができるような、そんな市役所を目指していきたいと考えています。</p> <p>現在、庁内でもそのような方向性で議論を進めていますので、今後何か進展があれば、改めてご報告させていただきます。</p>	—	人事課
市役所づくり	7	デジタル化の課題を踏まえた取り組みについて	共通	<p>デジタル化は確かに重要な取り組みですが、その裏には「省力化できる」「予算が削減できる」といった期待だけでなく、実際には維持管理に大きなコストがかかるという現実もあります。そうした実情を踏まえた上で、バランスの取れたデジタル化を進めていかないと、「人が対応した方が早い」というケースも十分にあり得ます。</p> <p>マイナンバーカードはその典型例だと思います。非常に大きな制度として導入されたにもかかわらず、利用が進まず、結果として費用ばかりがかさんでいる状況です。こうしたデジタル化の裏に潜む弊害についても、維持管理費などを含めて、きちんとバランスシートに落とし込んで検討していただきたいと思います。</p>	<p>おっしゃるとおりだと思います。単にデジタル化を進めるだけでは、かえって維持管理などのコストがかかってしまう場合があります。そのため、デジタル化によって人の業務を代替することで、コスト全体が削減できるように意識して取り組む必要があると考えています。</p> <p>この点については、担当課に対しても、コスト削減の視点を持って進めるよう指示を出しているところです。</p>	—	DX推進課

分類	NO.	テーマ	対象地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
産業	8	市内での雇用や就業状況について	共通	<p>データセンターの固定資産税を今後も拡充していくという話がありましたが、私もその方針には賛成です。ただし、収入の増加だけでなく、少子化対策の観点からも、子どもたちが安心して暮らせるような地域社会の形成が重要だと考えています。</p> <p>そのためには、安定した雇用が不可欠です。印西市にデータセンターが増えても、実際にどれだけの市民が正社員として働いているのか、あるいは今後働ける見込みがあるのかが気になります。派遣社員が中心となると、生活が不安定になり、結果として家庭を持つことや子どもを育てることが難しくなるのではないかと危惧しています。</p> <p>また、ビジネスモールについても、私は車を手放しているため詳しくはわかりませんが、遠くに何か建っているという程度の認識です。そこでも印西市民がどのような雇用形態で働いているのか、正社員か派遣かなど、実態をどのように把握し、今後どのように対応していくのかをお聞きしたいです。収入面だけでなく、雇用の質や就業状況の把握も重要だと思います。</p>	<p>まさに非常に重要なポイントだと思います。データセンターは、実際にはほとんど雇用を生みません。先日、あるデータセンターを視察した際に「何人くらい働いているのか」と尋ねたところ、全体で約50人、そのうち印西市民はわずか3人とのことでした。これは非常に大きな施設にもかかわらず、雇用効果が極めて限定的です。</p> <p>現在進行中のデータセンターの計画は民間によるもので、市として止めることはできませんが、今後については、印西市民が働ける場所をしっかりとつくっていきたいと考えています。印西は成田空港にも近く、世界に挑戦する企業や外資系企業の日本本社機能などを誘致できる可能性があると考えています。</p> <p>雇用の実態把握についても、非常に重要なお指摘だと思います。これまで印西市は東京のベッドタウンとして発展してきましたが、今後は地元で働ける環境を整える方向へ舵を切り始めています。次回お会いする際には、雇用の実態についてしっかりとご答えできるよう準備を進めてまいります。</p>	—	都市計画課 経済振興課
産業	9	データセンターについて	共通	<p>データセンターについてお伺いしたいのですが、世間的には「データセンターの街・印西」と言われており、データセンターが印西市を豊かにしている根源だという見方もあります。ただ、住民の立場からすると、それによって潤うのは良いことですが、いわゆる「1本足打法」になってしまっているのではないかと不安も正直あります。</p> <p>例えば、流山市や東京都日野市では、データセンターの建設に反対の声が上がり、計画が頓挫したという話も聞きます。また、最近ではAIの活用が進む中で、データセンターが大量の水を使用することによる水資源への不安も指摘されています。</p> <p>そうした中で、住民が暮らす地域とデータセンターとの共存をどう考えるのか、短期的な視点だけでなく、中長期的な視点での検討が必要だと思います。</p> <p>そこで、市長として、今後もデータセンターの誘致を積極的に進めていくのか、それとも第2の柱となるような別の財源や産業を考えていってほしいのか、中長期的なビジョンについてお聞かせいただきたいと思っています。</p>	<p>データセンターに依存した「1本足打法」は非常にリスクが高いと私も考えています。特に、償却資産の償却期間がいつ終わるのか、正確に把握しきれない部分もありますし、データセンターは雇用をあまり生まないという課題もあります。</p> <p>最近では、住民の生活導線上にデータセンターが進出してきているという状況もあり、これはやはり行き過ぎだと感じています。そこで、まずは「ゾーニング」が重要だと考えており、「この場所はデータセンターに適しているが、ここは違う」といったルールを、改めて明確に定めたいと思っています。</p> <p>現時点で進行中の案件については、現行ルールの基で進めざるを得ない部分もありますが、今年度中には新しいルールを策定する方向で、すでに動き始めています。</p> <p>中長期的には、ご指摘のとおり、新たな産業や雇用の場をしっかりと呼び込んでいくことが重要です。印西市はその可能性を大きく秘めていると私は思っています。たとえば、成田空港は2029年までに機能強化が完了し、便数もほぼ倍増する予定です。いわば「第2の開港」とも言われており、新たに整備されるエリアだけでも、日本の空港の中でトップ5に入る規模になると見込まれています。</p> <p>そうした成田空港の機能強化をチャンスと捉え、印西市としても新しい産業を創出し、積極的に誘致していくことが、今後の柱になると考えています。</p> <p>また、データセンターについても、市民の生活と調和した形での共存が必要です。私は「街のど真ん中にデータセンターがあるべきではない」という前提で、現在ルールづくりを進めているところです。なるべく早急に対応を進めてまいります。</p>	—	都市計画課 経済振興課
インフラ・防災	10	災害対策について	共通	<p>防災の集まりに参加した際、原山中学校では地下水を電動モーターで汲み上げ、蛇口から水を供給する仕組みがあると説明を受けました。しかし、災害時には電気が止まる可能性が高く、モーターを動かすための燃料（ガソリンなど）が枯渇すれば、水の供給も止まってしまう。</p> <p>また、備蓄されている食料も2〜3日分程度で、今年は大震災や津波のリスクが高いとされている中、非常に不安を感じています。三陸の3倍規模の津波が来る可能性もあり、利根川の氾濫など甚大な被害が想定されます。</p> <p>手動ポンプの導入を提案しましたが、高齢者には操作が難しいという理由で却下され、代替案としてソーラーパネルの設置を提案したところ、予算の都合で1年以上かかると言われました。災害はいつ起こるかかわからないのに、対応が遅れていることに強い危機感を抱いています。</p> <p>最悪の場合、地下水を汲む手段がなくなり、つるはして設備を壊してバケツで水を汲むしかなくなるのではないかと懸念もあります。</p>	<p>1点目として、災害時に何が起こるかというシミュレーションについてです。現時点では、まだ十分とは言えず、より多様な事態を想定した体制づくりが必要だと考えています。現在、防災課に対して、そうした体制を整えるよう検討を進めてもらっているところです。災害がいつ起こるかかわからないというリスクは認識しており、できる限り早急に対応を進めたいと思っています。</p> <p>2点目として、井戸水の供給についてです。現在の燃料では、恐らく3日程度の供給が限界だと思われます。そのため、燃料が尽きた場合でも対応できるよう、手動式の設備の必要性についても検討し、状況を確認した上で対応策を考えていきます。</p> <p>私自身、これまでに保険会社でリスクシナリオを検討する業務に携わった経験があり、100年や1000年に一度の災害が現実になり得るという前提で、シナリオを見直す必要性を強く感じています。市としても、そうした視点を持って防災対策を進めていきたいと考えています。</p>	—	防災課

分類	NO.	テーマ	対象地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
インフラ・防災	11	道路の安全対策について	西の原	<p>最近、車の渋滞を避けて住宅地内を通行する車が増えており、地域では安全面に不安を感じています。町内会を通じて会長にも状況を伝え、牧の原交番の警察官が時折、該当の十字路に立って見回りをしてくださっていますが、根本的な対策には至っていません。</p> <p>具体的には、東京インテリアから小畑工務店へ抜ける十字路で事故が多発しており、大通りから裏道へ抜ける車が止まらずに通行しています。特に西の原小学校の児童が通学路として利用しているため、非常に危険な状況です。地域住民による見守りも行われていますが、未来の子どもの安全を守るためにも、何らかの対策を講じていただきたいと強く願っています。</p>	<p>ご指摘の件については、スクールゾーンの設置や物理的な交通規制など、何らかの対策が必要だと考えています。今回の通りの状況については初めて伺いましたが、草深地区や原地区など、同様の課題を抱える地域からのご意見をいただいています。</p> <p>これらの地域では、もともと住宅が少なかった場所に新たに家が建ち始めており、歩道が整備されていないため、子どもたちの通行が非常に危険な状況になっています。また、抜け道として利用されることも多く、交通量が増加していることも問題です。</p> <p>地域の安全を守るため、こうした場所についても具体的な対応を検討していきたいと思います。</p>	—	道路建設課
インフラ・防災	12	道路の安全対策について	共通	<p>第11次交通安全計画によると、印西市内で発生する交通事故の約4割が、市道上で起きているとのこと。これは私道ではなく、市が管理する道路での事故です。件数としても非常に多く、重大な問題だと考えています。</p> <p>本来であれば、県道や国道の総延長や交通量などを分母にして、より正確な事故発生率を算出すべきですが、単純に件数ベースで見ても、市道での事故が全体の4割を占めているというのは、見過ごせない事実です。</p> <p>このような状況を踏まえ、市道における事故の傾向や原因をしっかりと分析し、改善策を講じていく必要があると強く感じています。</p>	<p>分析状況については、持ち帰って確認します。</p>	確認中	市民活動推進課
インフラ・防災	13	病院の送迎時の交通手段について	共通	<p>印西総合病院の送迎バスは、運行時間とルートが固定されており、特に高齢の患者さんにとって不便な状況です。リハビリステーションに通う方も多く、バスの時間に合わせて長時間待たなければならなかったり、ご家族が送迎しなければならぬケースも多くあります。</p> <p>また、病院の職員も日曜・祝日に勤務があるため、朝と夕方しかバスが運行していない現状では、駅まで徒歩で移動しなければならず、負担が大きいと感じています。</p>	<p>現在、ふれあいバスのルート再編を進めており、今年度後半からは、千葉ニュータウンエリアにある病院を巡回する新しいルートの導入に向けて動いています。具体的には、牧の原駅から印西総合病院を経由し、千葉ニュータウン中央の手前まで行って、ぐるっと回って戻ってくるようなルートを予定しています。</p> <p>まずは一度ご利用いただき、もし使い勝手が悪いと感じられた場合は、ぜひご意見をいただけるとありがたいです。</p> <p>この課題は非常に悩ましいもので、印西総合病院はもちろん、日本医科大学千葉北総病院に通われる方の中には、電車もバスも利用できないという方が増えています。福祉タクシーがあれば良いのですが、例えば木刈地区から日医大まで、毎週片道5,000円をかけて通っている方もいらっしゃいます。</p> <p>先ほどの市街化調整区域へのタクシー利用助成の話もありましたが、こうした方々が使いやすい新しい交通手段を整備しないと、根本的な解決にはならないと思います。この点はしっかりと肝に銘じて、今後の施策に活かしていきたいと考えています。</p>	—	交通政策課
インフラ・防災	14	停留所の環境について	共通	<p>バスのルートの件もそうですが、前回の対話会で、「運行時間が午後3時や4時過ぎで終わってしまう」「本数が少ない」といったご意見をお伝えしました。また、「停留所に屋根や椅子がないと、高齢者にとってはとても不便で大変だ」という話もさせていただきましたが、その点については現在どうなっていますか。</p>	<p>現在、バスのルートや時刻についても見直しを進めているところです。ただ、もしかすると皆さまのご期待に十分に答えられない部分が出てくるかもしれません。というのも、一部のルートでは民間のバス会社と重複して運行している区間があり、便数や運行時間の変更には、民間事業者のご理解が必要となるため、調整が難しい場合があります。</p> <p>そのため、先程の話にもつながりますが、抜本的な解決策としては、バス以外の移動手段をしっかりと整備していくことが重要だと考えています。バス停での待ち時間は、暑さや雨などの天候の影響もありますし、椅子がないと高齢者の方には非常に負担になります。そうした方々には、バス以外の移動手段を利用していただけるといった仕組みづくりを進めていきたいと考えています。</p> <p>短期的には、できる限りの対応を進めていきたいと思っておりますが、現状では限界もあると感じています。皆さまからいただいたご意見を踏まえ、今困っている方々に対して、できるだけ早く新しい交通手段の整備を進めていきたいと考えているところです。</p>	—	交通政策課

分類	NO.	テーマ	対象地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
インフラ・防災	15	市内の公共交通について	共通	<p>パブリックコメントで、交通政策課の自動車関係の係の方が案を出されていましたね。その案を基に、全てのルートが印西総合病院を通るようにして、一度時刻表を作成してみたところ、本当に便利で、牧の原駅と病院の間を5分から10分程度で行き来できるようになっていました。</p> <p>ですので、今回のパブリックコメントで示された時刻表を基にすると、牧の原駅と印西総合病院間の便数は、むしろ多すぎるくらいだと思います。</p> <p>問題は、国土交通省の方針として「民間のバス路線を圧迫してはいけない」という考え方があることです。ただし、民間と競合してはいけない、あるいは協力してはいけないということを国土交通省が言っているわけではありません。ですから、行政の対応の仕方が少し狭すぎるのではないかと感じています。</p>	<p>現在、千葉ニュータウンエリアでは、旧レインボーバス（現在は京成の子会社で、社名が京成セントラルに変更されています）が運行を担っており、実はこの京成セントラルが、コミュニティバスである「ふれあいバス」の運行も行っています。</p> <p>本来であれば、路線バスとコミュニティバスを一体的に運用することが可能なはずですが、しかし、現状ではそれぞれの運行形態に限界が来ていると私も感じています。そのため、京成側としっかりと議論を進めていく必要があると考えており、すでに担当課にはその方向で指示を出しています。</p> <p>現時点で担当課が対応できる範囲では、病院を巡回するバスの整備が中心となってしまっている状況です。先程の中ルートの話も含め、現行の枠組みではなかなか進展が難しい部分があります。</p> <p>抜本的な解決策として、極端な例ではありますが、路線バスを全てコミュニティバスに切り替えるという方法も考えられます。他の自治体の事例を見ても、そうした取り組みが行われているところもありますので、1年では完結しないかもしれませんが、そういった可能性も含めて検討していきたいと考えています。</p>	—	交通政策課
インフラ・防災	16	防犯対策について	共通	<p>「子どもの安全・安心」に関する話題に関連して、私自身、神奈川県から引っ越してきたばかりなのですが、草深（そうふけ）地区について少し不安を感じています。というのも、夜間が非常に暗く、街灯が少ないと感じており、子どもが一人で歩くには少し心配な環境だと思っています。</p> <p>防犯カメラの設置も大切だとは思いますが、まずは「そもそもの明るさ」、つまり街灯の整備が優先されるべきではないかと感じています。ぜひこの点について、拡充を検討していただきたいと思っています。</p>	<p>「明るさ」の問題についてですが、これは非常に難しい課題だと感じています。東京など都市部から引っ越してこられた方にとっては、印西市の夜間の暗さが気になるかもしれません。一方で、地元の方々からすると「昔よりはだいぶ明るくなった」という感覚もあり、私自身も地元育ちなので、その両方の感覚が分かります。</p> <p>特にニュータウンエリア、草深や宗甫、千葉ニュータウン牧の原駅の北口周辺、印西総合病院の横あたりなど、最近住宅が増えてきた地域では「暗い」というご意見が多く寄せられています。市として何が出来るかは、地域の方々との合意形成を踏まえながら検討していきたいと思っています。</p> <p>なお、明るさは非常に主観的なものです。例えば、牧の原駅南口に中古車販売店ができて、周辺が明るくなったことで「明るすぎて困る」という声もあるほどです。いずれにしても、ご意見は非常に重要だと受け止めています。</p>	—	市民活動推進課
教育・子育て	17	図書館について	共通	<p>先程の「未来への投資」というお話の中で、市長から「職員の研修がとても大切だ」とのお言葉がありました。まさにそのとおりだと思います。</p> <p>私は、印西市の図書館をより良くしていくという活動を続けている者です。印西市の図書館には現在6名の司書が在籍していますが、その全員が50歳以上で、次の世代を担う職員がいないという状況です。</p> <p>昨年5月には、図書館司書を3名募集するという取り組みがあり、66名の応募があったと聞いています。しかし、最終的には2名が何らかの事情で辞退され、1名のみの採用となったようです。</p> <p>今後、印西市の図書館をより良くしていくためには、市長がおっしゃったように、専門職の方々の存在が不可欠だと思います。現在の6名の司書が定年を迎えた後も、その専門性が途切れることなく継承されていくよう、継続的な採用と育成の仕組みを整えていただきたいと願っています。</p>	<p>図書館には、やはりその役割というものがああります。最近では電子図書の普及も進んでおり、「図書館の役割とは何だろう」と素朴に疑問を持つ方もいらっしゃると思います。もちろん、そう感じていない方もいらっしゃると思いますが、図書館は本来、何かを学び、何かを生み出していく「知の創造の拠点」だと私は考えています。</p> <p>時代に合った形で、例えば何か課題を抱えている方が図書館に来れば、必要な情報を得ることができる。そして、場合によっては何かを創り出すこともできる。極端な例ですが、北欧の図書館では3Dプリンターが設置されていて、「学びながら作る」ということが可能になっています。これこそが、これから求められる新しい図書館の価値だと思っています。</p> <p>また、図書館は子どもたちの居場所であり、全世代の方々の居場所でもあります。そうした新しい図書館の形を、市としてもぜひつくっていきたくて考えています。</p> <p>その中で、司書の方々の役割は非常に重要です。専門職として必要な情報を提供してただきだけでなく、積極的な司書の方であれば、イベントの企画・開催なども行ってくださいます。さまざまな分野の方々をお招きして、図書館を活性化させる取り組みも可能です。</p> <p>印西市では、現在の司書の方々が高齢化しており、新規採用も進めていますが、図書館を率いていけるような館長クラスの専門職の方を、外部からお招きする必要があると考えています。現在、「どうすればそうした方に来ていただけるか」を市役所内で検討しているところですので、改めてご相談・ご報告させていただきます。</p> <p>ちなみに、先月、私が視察に行った岩手県紫波町の図書館は、日本でも最も先進的な図書館の一つだと感じています。調べていただくと、非常に興味深い取り組みが見つかると思います。例えば、夜に図書館に人が集まり、お酒を飲みながら話を聞く「夜の図書館」といったイベントも行われています。</p> <p>まずは市役所内で報告会や勉強会を開催するところからスタートし、少しずつ図書館改革を進めていきたいと考えています。</p>	—	生涯学習課
教育・子育て	18	読書バリアフリー計画について	共通	<p>令和元年に「読書バリアフリー法」が施行され、令和5年には「千葉県読書バリアフリー推進計画」が策定されました。印西市でも、ぜひ市独自の「読書バリアフリー計画」を策定していただけたらと思っています。</p> <p>今後、視覚障害やその他の障がい、高齢化などにより、読書に困難を感じる方が増えていくと思います。ただ、当事者の声が少なく、実態の把握が難しい面もあるため、潜在的なニーズも汲み取った計画づくりをお願いしたいです。</p>	<p>今回ご指摘いただいた点は、問題意識としてまさにそのとおりだと思います。担当課とも話をしてみます。</p> <p>ただ、計画を作っても実際に進まないことも多く、それよりも、できることを一つずつ着実に進めていく方が、職員のリソースの使い方としては良いのではないかと感じています。とはいえ、今後シニア世代が増える中で、読書に困難を感じる方も確実に増えていくと思います。</p> <p>障害のある方々からもさまざまなご意見をいただいていますので、それも踏まえながら、対応を進めていきたいと思っています。</p>	—	生涯学習課

分類	NO.	テーマ	対象地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
教育・子育て	19	子どもの居場所づくりについて	共通	木育施設の設置について	<p>現在、夏場や雨天時に子どもたちが安心して遊べる場所が少ないという課題を受けて、全天候型の子ども向け施設の整備を検討しています。特に小学校高学年の子どもたちは、学童にも通いづらく、居場所が限られているため、こうした施設の必要性を強く感じています。</p> <p>また、木のある環境が子どもたちの非認知能力の発達に良い影響を与えるという話もあり、「もくいく（木育）」の観点も取り入れながら、自然とふれあえる居場所づくりを進めていきたいと考えています。</p> <p>具体的には、「草深の森」でプレイパークのような活動を行っている市民の方々もおり、そうした取り組みを市としても積極的に支援していきたいという思いを持っています。</p>	—	子育て支援課
教育・子育て	20	自転車の交通ルールの指導について	共通	<p>昨日のテレビで、来年4月から自転車の罰則が強化されるという報道を見ました。私自身、歩道で中学生に追突されて膝を痛め、半年ほど治療が必要になった経験があります。</p> <p>この地域では、自転車のルールが家庭任せになっている印象があり、小学校高学年や中学生になると自転車通学が増えるにもかかわらず、十分な指導がされていないように感じています。</p> <p>実際に市内の学校で自転車教育が行われているのか、また罰則強化に向けてどのような対応を考えているのか、お伺いしたいです。</p>	<p>私が中学生の頃は、学校で自転車のルールをしっかり教わっていた記憶があります。現在の状況については、教育委員会に確認します。来年4月の罰則強化に向けて、必要な対応を検討していきます。</p>	<p>毎年、全小中学校で交通安全教室を実施しております。その中で自転車の乗り方について指導に努めております。その際、同席している交通安全協会の職員による講話の中で、罰則強化についても説明しております。</p>	指導課
教育・子育て	21	小規模特認校について	共通	<p>小規模特認校について2点お伺いします。</p> <p>1点目は、特色ある学校づくりについて、現在の計画やお考えがあれば教えていただきたいということです。</p> <p>2点目は、船穂小学校と本埜中学校が小規模特認校として市内全域から通えるようになっていますが、最近では牧の原駅周辺から通う生徒も増えています。そうした学区外から通う生徒のバス代や電車代など、交通費の助成について何かお考えがあれば教えていただきたいです。</p>	<p>小規模特認校についてですが、本埜中学校と船穂小学校の2校が市内にあり、どちらも市内全域から通える仕組みになっています。大規模校の環境に馴染みにくい子どもたちが、こうした学校に通ってくれている状況です。</p> <p>市としては、これまでさまざまな意見があったことは承知していますが、私はこの制度を継続していく方針です。場合によっては、今後さらに小規模特認校の数を増やすことも検討しています。ただ、現時点では具体的な取り組みが十分に進んでいないのが正直なところです。</p> <p>しかしながら小規模で自然豊かな環境だからこそ可能な学びがあると考えています。例えば複式学級では、異なる学年の子どもたちが一緒に学び、上級生が下級生の面倒を見るというような、協働的な学びが生まれます。</p> <p>さらに、デジタル教育との相性も良く、少人数だからこそロボットやプログラミングなどの学びが深めやすい環境です。自然の中でデジタル技術を活用する、例えば土壌センサーを使って作物を育てるような学びも、印西ならではの教育の可能性だと思っています。</p> <p>教育委員会ともこうした方向性について議論を始めているところですので、もう少し時間をいただければと思います。</p> <p>通学支援についても、今年度は船穂小学校へのアクセスを改善するため、コミュニティバスのダイヤ改正を検討しています。スクールバスを利用する児童への負担軽減も含め、交通費助成などについて前向きに検討していきたいと考えています。</p>	—	学務課
健康・福祉	22	新型コロナウイルスのワクチン接種について	共通	<p>コロナについてですが、最近ホワイトハウスがウイルスの人工的な起源や、ワクチンの効果に疑問を示す発表をしたという報道を見ました。日本では予防接種が続いており、情報も十分に伝わっていないように感じます。</p> <p>今後、鳥インフルエンザの流行も懸念される中で、イベルメクチンの市販化なども検討されていると聞いています。市としても、こうした状況を踏まえた対応を考えていただきたいです。</p>	<p>大前提として、市民の生命と財産を守ることが行政の責務です。</p> <p>ワクチンについては、さまざまな説や情報が出ていることは承知していますし、トランプ政権下での発表や中国に関する見解も一定の認識はあります。ただ、現時点では科学的根拠（エビデンス）が不足している部分もあると考えています。</p> <p>そのため、行政としては、今把握できている情報を丁寧に提供し、市民の皆さんが自分で判断できる材料を整えることが重要だと思っています。強制ではなく、選択できる環境を整えることが大切であると考えています。</p>	—	健康増進課

分類	NO.	テーマ	対象地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
まちづくり	23	市民の市政への参加について	共通	<p>要望を伝えるだけでなく、私たち市民が市に対して何ができるのかも考えていかなければならないと思っています。少し抽象的な質問で恐縮ですが、市長として、私たち市民に「こういうことをしてほしい」「こういう関わり方をしてもらえるとありがたい」といったアドバイスがあれば、ぜひ教えていただきたいです。</p>	<p>「市民として何ができるか」についてですが、こうした対話の場はもちろん、それ以外の場でも「こんなことができる」「こういう活動をしたい」といったご提案をいただくと非常にありがたいです。</p> <p>また、8名以上のグループであれば、市と市民とのグループ対話の場を設けることができます。そうした場でご意見をいただいてもかまいませんし、直接市役所の担当課や秘書広報課などにご連絡いただいてもかまいません。</p> <p>最近では、牧の原公園の周回コース（約800メートル）を使ってリレーマラソンを企画したいというパパさんたちの声や、千葉ニュータウン中央駅前の遊歩道でイベントを開催したいというご提案もいただいています。また、「仮設でもいいので建物を設置してほしい。そこで市民が自由に活動できるようにしたい」といったアイデアも寄せられています。</p> <p>こうした「やりたい」という思いがあれば、ぜひ市へご相談ください。グループ対話の場を活用していただいてもかまいませんし、我々としても全力でサポートし、一緒にまちづくりを進めていきたいと考えています。</p>	—	秘書広報課